

2025年12月16日
株式会社日立製作所

日立オリジンパークにてオオシマザクラの植樹式を開催

創業の地・日立市で、記念樹「共創桜 あさひ」を象徴に、日立市の持続的発展と社会への貢献意思を表明



日立オリジンパークにおける植樹式の様子(左から、JX金属株式会社 林陽一氏、株式会社日立製作所 徳永俊昭、日立市 梶山隆範氏)

株式会社日立製作所(以下、日立)は、JX金属株式会社(以下、JX金属)と日立市を来賓として迎え、茨城県日立市の企業ミュージアム「日立オリジンパーク」にて、オオシマザクラの植樹式(以下、本式典)を開催しました。

本式典は、JX金属の出発点である日立鉱山が煙害により荒廃した鞍掛山に大煙突を設置し、地域の方々と協力してオオシマザクラを中心とする苗木を植樹することで山を蘇らせた歴史を背景に、鞍掛山のオオシマザクラの子孫樹を日立オリジンパークに移植したものです。2025年はJX金属の上場、日立の新社長就任および新経営計画の発表と、両社にとって記念すべき年であることをきっかけに、両社の創業の地である日立市への想いを継承し、JX金属と日立の更なる関係強化、そして地域との共存共栄の象徴となることを願い、記念樹を「共創桜 あさひ」と命名し、記念プロジェクトとして実施しました。

日立グループは、環境・幸福・経済成長の3つが調和する「ハーモナイズドソサエティ」の実現に貢献することをめざしており、そのビジョンを体現する取り組みとして、現在、日立市と共に、次世代未来都市共創プロジェクトを進めています。「グリーン産業都市の構築」「デジタル健康・医療・介護の推進」「公共交通のスマート化」など、複数の分野で自治体・アカデミア・企業・市民が一体となって取り組みを推進し、日立市全体の活性化と市民の皆様が安全・安心に暮らせる街づくりに貢献してまいります。

今後日立は、今回の記念プロジェクトを契機に、JX金属および日立市との連携をより一層強化し、地域社会の持続可能な発展と「ハーモナイズドソサエティ」の実現に向けて取り組んでまいります。

■株式会社日立製作所 執行役社長兼CEO 徳永俊昭のコメント

「日立グループのルーツは日立鉱山の機械修理工場にあり、再生を遂げた鞍掛山の歴史は『優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する』という当社の企業理念の原点と言えます。同じく原点である日立オリジンパークにオオシマザクラをお迎えできたことは、大変意義深いことと考えており、引き続き、JX金属や日立市の皆さんとともに、地域の発展に取り組んでまいります。」

■JX金属株式会社 社長執行役員 林陽一氏のコメント

「日立とJX金属の双方にとって重要な場所である日立市において、両社の絆とこの地域への想いを再認識することができたことを嬉しく思います。本プロジェクトをきっかけとして、今後も日立製作所、日立市と協力しながら、新たな価値を創出していくたいと考えています。」

■日立市 副市長 梶山隆範氏のコメント

「地域と企業が長い歴史の中で共に歩んできたことを、改めて実感しました。オオシマザクラは努力と誇りの象徴であり、継続的な取り組みが100年後の街づくりにもつながると考えています。今回の植樹式を通じて、日立、JX金属、日立市の力強い関係がさらに深まったことを嬉しく思います。」

次世代未来都市共創プロジェクトについて

<https://www.city.hitachi.lg.jp/kyoso-project/index.html>

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティビティ&ストリーズの4セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略SIBビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumadaをコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2024年度(2025年3月期)売上収益は9兆7,833億円、2025年3月末時点で連結子会社は618社、全世界で約28万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.co.jpをご覧ください。

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
